



東淀川区医師会

2019年度



循環器疾患対策セミナーのご案内

生活習慣病とは、食事や運動、ストレス、喫煙、飲酒などの生活習慣がその発症・進行に深く関与する病気の総称をいいます。生活習慣病には糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満、心臓病、脳卒中などがあります。以前は成人病と呼ばれていましたが、成人病は子供の頃からの悪い生活習慣によって起こることがわかり、1996年に厚生省が「生活習慣病」と改称しました。

日本人の死亡原因は、脳卒中や虚血性心疾患（心筋梗塞など）の循環器病とがんの割合が多くなっています。その多くは生活習慣が関係する生活習慣病です。糖尿病、高血圧症、脂質異常症などを放置しておくと、動脈硬化が急速に進み、循環器病やその他重症の合併症に進展するおそれがあります。また65歳以上の要介護の原因にもなっています。そのような状態にならないために、今から生活習慣病の予防が大切になります。

生活習慣病の予防対策としては、健康を増進し病気の発症自体を予防する「1次予防」、病気を早期に発見・治療する「2次予防」、治療により進行を防ぎ回復を目指す「3次予防」があります。このなかでも「3次予防」はリハビリテーション、後遺症の予防、社会復帰対策、再発防止策が中心であり、医師のみならず多職種が協働して進めなければならない分野といわれています。今回はこの「3次予防」を中心にお話をさせていただきます。

記

日 時 2019年7月10日(水) 午後2時～

会 場 東淀川区医師会館 3階講堂（豊新2-3-7）

演 題 『生活習慣病の3次予防ってなに?』

淀川キリスト教病院
循環器内科 副部長 **田中 康史 先生**

対象者 東淀川区民（先着40名）

入場は
無料です

参加ご希望の方は、事前に東淀川区医師会まで
お電話にてお申し込みください。

☎ 6320-2226

主催：東淀川区医師会